

令和 2 年 6 月 11 日現在

機関番号：32621

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17H02341

研究課題名(和文) 原典資料に基づく、キリシタン語学の根源的再編成

研究課題名(英文) Fundamental restructure of the Missionary Linguistics in Japan based on the source documents

研究代表者

豊島 正之 (TOYOSIMA, MASAYUKI)

上智大学・文学部・教授

研究者番号：10180192

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,200,000円

研究成果の概要(和文)：キリシタン語学の根幹をなす文法書・辞書研究を、その欧文典拠の解明と、原典とキリシタン文献との克明な対照する作業を通じて、当時のキリシタン達の持ち得た視線からキリシタン語学の構築を再現する事が、本研究の目的であった。このため、キリシタン文法書に強い影響を及ぼしたイベリア半島文法書類の電子化を行ない、それらを総合的に通覧可能なデータベースの公開・運用を開始した(2019年)。又、ブラジル国立図書館に「日ポ辞書」の新たな版本を見出し(2018年)、その徹底的な研究を行なって、国際シンポジウムを挙行(2020年2月)し、その成果を出版した(2020年3月)。

研究成果の学術的意義や社会的意義

今回の研究によって、「キリシタン語学」の中核をなすキリシタン版日本語文法・対訳辞書の研究で、キリシタン版の諸文法書の典拠原典を突止め、それを全文電子化してデータベースとして公開し、それらに就ての研究論文を公刊した。キリシタン文法書類の典拠原典が、万人が自由にアクセス可能な状態に置かれ、それを自在に参照した研究の公刊を可能としたのは、この研究を以て嚆矢とする。印刷史・表記史の観点から、キリシタン版諸本の原本調査を行なったが、その過程で見出された、ブラジル国立図書館に「日ポ辞書」の新たな版本は、国際シンポジウム・その成果の公刊を全て研究期間内に完了し、「日ポ辞書」研究に新たな水準を示した。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to reconstruct the Early Japanese Christian linguistics from the point of view of the Christians of the time by elucidating the grammatical and lexical studies that formed the basis of the Christian linguistics. The method taken was to designate their European sources, and contrasting the original texts with the Christian documents. We have digitized the Iberian peninsular grammars that had a strong influence on the Christian grammars, and have constructed and published a world accessible database on the www (<https://joao-roiz.jp/LGRI/>). We have found a new edition of the Japanese-Portuguese Dictionary in the National Library of Brazil (2018), conducted a thorough study on it, organized an international symposium (February 2020), and published the results in March 2020.

研究分野：国語学, 日本語学, 宣教に伴う言語学

キーワード：キリシタン語学 キリシタン版 キリシタン文献 宣教に伴う言語学 Missionary linguistics

1. 研究開始当初の背景

16～17 世紀のキリスト教宣教に伴うキリシタン史研究は、早く明治年間に幸田成友、姉崎正治(嘲風)などによる先駆的な研究があり、主としてイエズス会の文献(版本・写本類)による日本語学研究には「キリシタン語学」の通称があつて、新村出、橋本進吉、土井忠生、亀井孝、森田武、福島邦道などの先学により、既に大きな進展を見ていることは、学界周知である。

近時、キリシタン文献研究には、同時代のキリスト教布教に伴ってアジア・中南米などで展開されたラテン・ポルトガル・スペイン語による他言語(現地語)研究の参看が重要であることが明らかにされ、キリシタン文献の背景をなす大航海時代の多言語研究である「宣教に伴う言語学」 missionary linguistics の視点からの研究が進捗しつつある。研究代表者(豊島)らは、「宣教に伴う言語学」の手法によるキリシタン文献学の最先端の研究をまとめた「キリシタンと出版」(2013年、八木書店)を世に問うたが、同書は第 35 回「日本出版学会賞」(2014 年)を受賞し、「現時点での集大成であり、同時にスタートアップに位置づけられる論集」、「世界中に類書のまったくない、内外研究者必携の書であり、出版研究に対する功績はきわめて大きい」との評価を頂戴した。

このように「宣教に伴う言語学」によるキリシタン文献研究は、特に印刷・出版史には一定の進捗を見たが、一方、「キリシタン語学」の中核をなすキリシタン版日本語文法・対訳辞書の研究では、キリシタン版「ラテン文典」(1594 年、天草刊)・キリシタン版「ラポ日対訳辞書」(1595 年、天草刊)の依拠原本を、それぞれスペイン語・ポルトガル語版 Alvares ラテン小文典(1578・1583 年)(Assunção・豊島、2013)、1580 年リヨン刊 Calepinus(岸本恵美、2008)と比定するなど、着実に解明を積み重ねては来たものの、これらの解明の薄片だけでは、キリシタン語学全体の再構築には至らない。

2. 研究の目的

キリシタン語学の根幹をなす文法書・辞書研究を、その欧文典拠の解明と、原典とキリシタン文献との克明な対照する作業を通じて、当時のキリシタン達の持ち得た視線からキリシタン語学の構築を再現する事が、本研究の目的であった。

このため、原典資料の収集・原本の調査だけではなく、キリシタン時代のイベリア半島の語学書(文法書・正書法書・辞書)類を調査し、それらの電子化を進め、キリシタン文献の文法書・辞書との関連性を実証する事とした。

更に、印刷史・表記史の観点も加味して、キリシタン語学を根源から体系的に再編成するために、キリシタン文献の、国字本全文字データベースを含めた、表記・語彙の総合データベースを維持し、更に、上記の同時代イベリア半島文法書・語彙集の調査と組み合わせる事で、「宣教に伴う言語学」の視点から再検討し、キリシタン語学を原典に遡るという方法を用いて、根源から再編成する事とした。

3. 研究の方法

- (1) イベリア半島(スペイン・ポルトガル)系の辞書・文法書類のデータ整備・翻案原典の確認
日本イエズス会は、初の日本語文法書三点をキリシタン版として刊行する(1594、1604、1620 年)が、これらの記述言語は、当時のラテン語・ポルトガル語であり、その文法用語は、現代通用のラテン語・ポルトガル語では時に理解困難である。例えば「語根」(raiz、ポ語「根」)は、日本イエズス会が日本語文法のために、Alvares のラテン大文典(1572 年)に倣って採用した用語である(豊島正之、2016)。イエズス会の日本文法には、raiz 以外にも、proposição、verbo sincopado など、未解明の用語が少なくなく、これらを、イベリア半島系の同時代のラテン、スペイン、ポルトガル辞書・文法書類、又、同時期のコンカ

二語などの他言語のイエズス会による文法書類と対照させつつ、日本イエズス会独特の用語・用法が生み出されるに至った過程を解明しようとした。

(2) 翻訳・翻案原典の確認

ローマ字本「サントスの御作業」(1591)や「コンテンツスムンヂ」(1596)のように、ラテン語版が翻訳原典かと推定されながらも、具体的な版の同定に至らないものは、キリシタン版の精確な解釈のために、これらの翻訳・翻案原典の探索と、それに基づく翻訳過程の解明を行なう事とした。

(3) 国字本・日本語ローマ字本の表記の関連性の検証

国字本(漢字仮名交じり文)キリシタン版は、その漢字表記が「定訓」に基づくことが判明しており、更に、日ポ辞書(1603)などに見える「訓釈」(語を構成する漢字一字一字に対する表記注)と「定訓」との整合性にも一定の見通しがある。ローマ字本には時に解釈に難渋する部分があるが、(前項の)翻訳原典との対照を経た解釈の確認を経て、日本語キリシタン版の全て(ローマ字本・国字本)を形態素表記にまで分解して、「定訓」用法の一貫性の検証を行なった上で、ローマ字本キリシタン文献の解読・漢字表記化をほぼ確定しようとした。

(4) 印刷史研究

キリシタン版原本の詳細な観察によって、これまで、申請者等が印刷史・出版史に関して得て来た知見を、向上させようとした。

(5) 宣教に伴う言語学」の対照資料として、コンカニ語(インド)・ポルトガル語対訳の辞書・文法書・教義書の電子化を進めて、それらとイベリア半島系データとの統合の前提として、これらの原典の確認を行ない、そのポルトガル語部分を、イベリア半島系のデータと対照し得るように整備しようとした。

4. 研究成果

上記の様な区分での研究を進めたが、予想を遙かに上回る成果を得た。

特に、イベリア半島文法書類の電子化によって、それらを総合的に通覧可能なデータベースの公開・運用(<https://joao-roiz.jp/LGRI/>)が開始出来た事と、ブラジル国立図書館に「日ポ辞書」の新たな版本を見出し、その徹底的な研究を行なって、国際シンポジウムを挙行(2020年2月)し、その成果を出版した(2020年3月)事は、研究開始当初には予想もしなかった成果である。

(1) イベリア半島(スペイン・ポルトガル)系の辞書・文法書類のデータ整備・翻案原典の確認

Antonio Nebrija の「ラテン文法」は著名で、イベリア半島のラテン語学に顕著な影響があった事で知られるが、15~17世紀の版本は百点を超え、どれがイエズス会の日本文法に影響力があつたかは、不明であった。今回の研究で、その第三版(1495初版)系列、しかも1520年以降、具体的には第三章に *Erotymatis* とある版の系列である処まで突止めた。この1495年初版 *Introductiones latinae* は、その詳細注を含む全文データベースを構築し、既にサービス中である。(<https://joao-roiz.jp/LGRI/>)。同様に影響力があり、イエズス会の標準文法ともなった Manoel Alvares の *De institutione grammatica libri tres* (1575 版本、1578 スペイン適用版、1583 ポルトガル適用版)も、巻1に就いて、同様に全文データベースを構築し、同上の URL から既にサービス中である。こらは統合検索を可能としてある。この他に、Fernão de Oliveira, João de Barros の各ポルトガル語文法・正書法の電子化も既に完了し、いずれも全文データベースをサービス中である。<https://joao-roiz.jp/LGRM/>

(2) 原本・翻訳・翻案原典の確認

「コンテンツスムンヂ」(1596)に、新たに Herzog Augustus 図書館(ドイツ)の所蔵本が見出され、原本を詳細に調査して、報告論文を公刊した。併せて、典拠ラテン語・スペイン語との克明な対照を行なった。こちらの公刊は今後を予定している。「サントスの御作業」(1591)の典拠原典として、Alonso de Villegas 及び Diogo do Rosario の Flos Sanctorum(聖人伝)が有力である事を突止めたが、両者とも、当時の版本が多数あり、版次の特定には至っていない。

(3)国字本・日本語ローマ字本の表記の関連性の検証

キリタン版国字本・日本語ローマ字本の全語彙を関連させたデータベースは完成し、試験運用中である。これに基づいて、「定訓」に関する論文を何点か公刊した。

(4)印刷史研究

研究期間中の 2018 年に、研究分担者の白井純が、折から集中講義で滞在中のブラジルの国立図書館(リオ・デ・ジャネイロ)で、従来未知だった「日ポ辞書」(1603)の一本を見出した。これはブラジルの日系社会で大きく取り上げられただけでなく、それまでの「日ポ辞書」にも大きな刺戟となり、2020 年 2 月には、ブラジル国立図書館館長・理事長とサンパウロ大学教授をブラジルより招聘して、国際シンポジウムを開催し、学的成果を集結した。その成果は、2020 年 3 月に「リオ・デ・ジャネイロ本日葡辞書」(八木書店)として出版した。

(5)宣教に伴う言語学」の対照資料として、コンカニ語(インド)・ポルトガル語対訳の辞書・文法書・教義書の電子化を完成し、英訳を添えて、公刊(私家版)した。

以上。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計18件（うち査読付論文 8件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 Kishimoto Emi | 4. 巻 2019 |
| 2. 論文標題 Japanese Linguistics as Reflected in Material by Western Missionaries | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 Bulletin of the Chinese Linguistic Society of Japan | 6. 最初と最後の頁 63~78 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.7131/chuugokugogaku.2019.266_63 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |
| 1. 著者名 白井純 | 4. 巻 243 |
| 2. 論文標題 キリシタン版ローマ字日本語文の分節標示と疑問符 疑問文の文末位置以外にみられる疑問符を中心として | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 国文学攷 | 6. 最初と最後の頁 1-20 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |
| 1. 著者名 白井純 | 4. 巻 79 |
| 2. 論文標題 明治時代初期の藩校図書 信州高遠藩の蔵書選択にみる図書の利用 | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 広島大学大学院文学研究科論集 | 6. 最初と最後の頁 29-46 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |
| 1. 著者名 白井純 | 4. 巻 なし |
| 2. 論文標題 『脩華嚴奥旨妄盡還源觀』の刊行 印刷方法と訓読方針の関係について | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 『高山寺経蔵の構成と伝承』高山寺典籍文書総合調査団編 | 6. 最初と最後の頁 153-169 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 豊島正之 | 4. 巻 1 |
| 2. 論文標題 キリシタン版辞書での同音異義と一語多義 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 論究日本近代語 | 6. 最初と最後の頁 21-34 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|--------------------|
| 1. 著者名 豊島正之 | 4. 巻 37 |
| 2. 論文標題 キリシタン版「日ボ辞書」のプロボジサン注記に就て | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 上智大学国文学科紀要 | 6. 最初と最後の頁 1-14 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|--------------------|
| 1. 著者名 豊島正之 | 4. 巻 53 |
| 2. 論文標題 キリシタン版冒頭部の印刷順序 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 上智大学国文学論集 | 6. 最初と最後の頁 1-12 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 豊島正之 | 4. 巻 96-5 |
| 2. 論文標題 キリシタン文献の典拠問題 | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 国語と国文学 | 6. 最初と最後の頁 74-87 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|--------------------|
| 1. 著者名 豊島正之 | 4. 巻 52 |
| 2. 論文標題 キリシタン版の表紙絵裏の本文の印刷に就て | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 上智大学国文学論集 | 6. 最初と最後の頁 1-12 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 岸本恵実 | 4. 巻 110 |
| 2. 論文標題 キリシタン語学書の展開 : ジョアン・ロドリゲスとアレクサンドル・ド・ロード | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 語文 | 6. 最初と最後の頁 66-52 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 白井純 | 4. 巻 120-3 |
| 2. 論文標題 新出キリシタン版・リオ本『日葡辞書』について | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 國學院雑誌 | 6. 最初と最後の頁 15-21 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 白井純 | 4. 巻 14-3 |
| 2. 論文標題 研究展望 : 文字・表記 (史的研究) | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 日本語の研究 | 6. 最初と最後の頁 57-64 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|--------------------|
| 1. 著者名 豊島正之 | 4. 巻 140 |
| 2. 論文標題 キリシタン日本語文典の典拠問題と電子化テキスト | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 訓点語と訓点資料 | 6. 最初と最後の頁 1-15 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---------------------------------------|---------------------|
| 1. 著者名 豊島正之 | 4. 巻 51 |
| 2. 論文標題 パチカン図書館蔵バレット写本の基礎的考察 | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 上智大学国文学論集 | 6. 最初と最後の頁 70-86 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 豊島正之 | 4. 巻 98-4 |
| 2. 論文標題 活字印刷の選択--キリシタン版を例として-- | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 東洋学報 | 6. 最初と最後の頁 423-425 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|--------------------|
| 1. 著者名 丸山徹 | 4. 巻 18 |
| 2. 論文標題 コンゴ語版キリシタン要理(1964)第一章 コンカニ語版・日本語版と対照させて | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 南山大学日本文化学科論集 | 6. 最初と最後の頁 1-16 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|----------------------|
| 1. 著者名 白井純 | 4. 巻 139 |
| 2. 論文標題 落葉集本篇の掲載語彙について 古本節用集との比較をとおして | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 訓点語と訓点資料 | 6. 最初と最後の頁 95-104 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 白井純 | 4. 巻 H28 |
| 2. 論文標題 漢字の出現頻度と活字コマの在庫状況の関係について 横尾平等心王院古活字版を例として | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 高山寺典籍文書総合調査団研究報告論集 | 6. 最初と最後の頁 60-66 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計13件 (うち招待講演 5件 / うち国際学会 3件)

| |
|--|
| 1. 発表者名 TOYOSHIMA, Masayuki |
| 2. 発表標題 Normative and descriptive grammars -- adaptation of the Iberian trend by the Jesuits in Japan |
| 3. 学会等名 Japon y el Siglo de Oro español en un conexto global (Universidade Autonoma de Madrid, Spain) (招待講演) (国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 豊島正之 |
| 2. 発表標題 能楽伝書類の国語学的研究 規範と記述の問題 |
| 3. 学会等名 「能楽資料研究の可能性」野上記念法政大学能楽研究所 (招待講演) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 豊島正之 |
| 2. 発表標題 宣教時代の文法学に見る普遍性 - ラテン語で書く日本語文法 |
| 3. 学会等名 キリシタン語学の最先端 - 大航海時代のキリシタン文献を通じてみるヨーロッパ言語と日本語の邂逅 (招待講演) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 岸本恵実 |
| 2. 発表標題 宣教と多言語辞書 |
| 3. 学会等名 キリシタン語学の最先端 - 大航海時代のキリシタン文献を通じてみるヨーロッパ言語と日本語の邂逅 (招待講演) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 TOYOSHIMA, Masayuki |
| 2. 発表標題 The roots of "raiz" (root) in the Jesuit grammars |
| 3. 学会等名 The 10th International Conference of Missionary Linguistics, Rome (国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 KISHIMOTO, Emi |
| 2. 発表標題 Influence of Joao Rodriguez 's Japanese grammar books seen in Alexandre de Rhodes ' Vietnamese books |
| 3. 学会等名 The 10th International Conference of Missionary Linguistics, Rome (国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--------------------------------------|
| 1. 発表者名 岸本恵実 |
| 2. 発表標題 ロドリゲス「日本語文典」とロード「ベトナム語概説」 |
| 3. 学会等名 第8回キリシタン語学研究会 |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|------------------------------|
| 1. 発表者名 豊島正之 |
| 2. 発表標題 ロドリゲス文典の「中性動詞」に就て |
| 3. 学会等名 第8回キリシタン語学研究会 |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|------------------------------------|
| 1. 発表者名 白井純 |
| 2. 発表標題 形態的特徴からみた羅葡日辞書の日本語訳について |
| 3. 学会等名 第8回キリシタン語学研究会 |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 岸本恵実 |
| 2. 発表標題 アレクサンドル・ド・ロード「ベトナム語・ポルトガル語・ラテン語辞書」(1651)と日本語 |
| 3. 学会等名 2017年度キリシタン文化研究会大会および講演会(招待講演) |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 岸本恵実 |
| 2. 発表標題 新出本ヘルツォーク・アウグスト図書館蔵ローマ字本コンテンツス・ムンヂについて |
| 3. 学会等名 第7回キリシタン語学研究会 |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|---------------------------------|
| 1. 発表者名 豊島正之 |
| 2. 発表標題 パチカン図書館蔵バレット写本の基礎的考察 |
| 3. 学会等名 第7回キリシタン語学研究会 |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 白井純 |
| 2. 発表標題 「落葉集」本篇の掲出語彙について 「易林本節用集」との比較をとおして |
| 3. 学会等名 訓点語学会第116回研究発表会 |
| 4. 発表年 2017年 |

〔図書〕 計4件

| | |
|--------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 白井純・エリザタシロ | 4. 発行年 2020年 |
| 2. 出版社 八木書店 | 5. 総ページ数 868 |
| 3. 書名 リオ・デ・ジャネイロ国立図書館蔵 日葡辞書 | |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 MARUYAMA, Toru | 4. 発行年 2019年 |
| 2. 出版社 private press | 5. 総ページ数 144 |
| 3. 書名 Supplement to VLKK (Vocabulario da Lingoa Canarim 1626) 2005 & DCKK (Doutrina Christam em Lingoa Bramana Canarim 1622) 2012. | |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 MARUYAMA, Toru | 4. 発行年 2019年 |
| 2. 出版社 private press | 5. 総ページ数 151 |
| 3. 書名 Doutrina Christa;a, ordenada a maneira de dialogo pera ensinar os meninos - a tentative English translation (through Portuguese) of Christian Doctrine written in the language of the Kingdom of Kongo published in 1624 | |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 MARUYAMA, Toru | 4. 発行年 2019年 |
| 2. 出版社 private press | 5. 総ページ数 849 |
| 3. 書名 Vocabulario of the Konkani language in early seventeenth century with English translation and philological comments prepared by Rocky V. Miranda (compiled by Toru Maruyama) vols. 1 & 2 | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

| |
|--|
| <p>イベリア半島のラテン文法 http://joao-roiz.jp/LGR1/</p> |
|--|

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|--|---------------------------------------|----|
| 研究分担者 | 丸山 徹 (MARUYAMA TORU) (40165949) | 南山大学・人文学部・研究員 (33917) | |
| 研究分担者 | 白井 純 (SHIRAI JUN) (20312324) | 広島大学・文学研究科・准教授 (15401) | |
| 研究分担者 | 岸本 恵実 (KISHIMOTO EMI) (50324877) | 大阪大学・文学研究科・准教授 (14401) | |
| 研究協力者 | 中野 遙 (NAKANO HARUKA) | 上智大学 | |
| 研究協力者 | 黒川 茉莉 (KUROKAWA MARI) | | |